

平成11年12月 全国家庭児童調査 〔結果の要旨〕

I. 調査の要綱

1. 調査の目的 : 全国のお家庭にいる児童及びその世帯の状況を把握し、児童福祉行政推進のための基礎資料を得ることを目的とする。
2. 調査の時期 : 平成11年12月1日現在
3. 調査の対象 : 全国の18歳未満の児童及びその児童のいる世帯
4. 調査の客体 : 平成11年国民生活基礎調査の対象となった調査単位区から無作為に抽出した360調査単位区内の18歳未満の児童(3,633人)及びその児童のいる世帯(2,044世帯)
5. 調査の機関 : 厚生労働省雇用均等・児童家庭局で企画し、各都道府県・指定都市及び中核市に委託して実施
6. 調査の方法 : 留置自計方式(調査員が世帯に回答を依頼し、後日回収)
7. 調査の集計 : 雇用均等・児童家庭局が行った。

II. 調査結果の要旨

【世帯の状況】

1. 世帯の状況 [概要 P. 2]

ほとんどの世帯が「父母とも同居」の世帯で、前回とあまり変化はない。

	世帯数の構成割合			児童数の構成割合		
	平成元年	平成6年	平成11年	平成元年	平成6年	平成11年
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
父母ともいる	93.8	94.5	93.6	94.9	95.4	94.7
父母とも同居	92.1	91.8	90.5	93.3	92.8	91.9
母がいない	1.4	0.9	1.1	1.1	0.8	0.9
父がいない	4.7	4.5	5.2	3.9	3.8	4.4
父母ともいない	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0

2. 父母の就労 [概要 P. 3]

「父母とも同居」している世帯について夫婦の就労状況をみると、「共働き世帯」が半数以上となっている。

	平成元年	平成6年	平成11年
共働き世帯	52.1	49.1	51.6

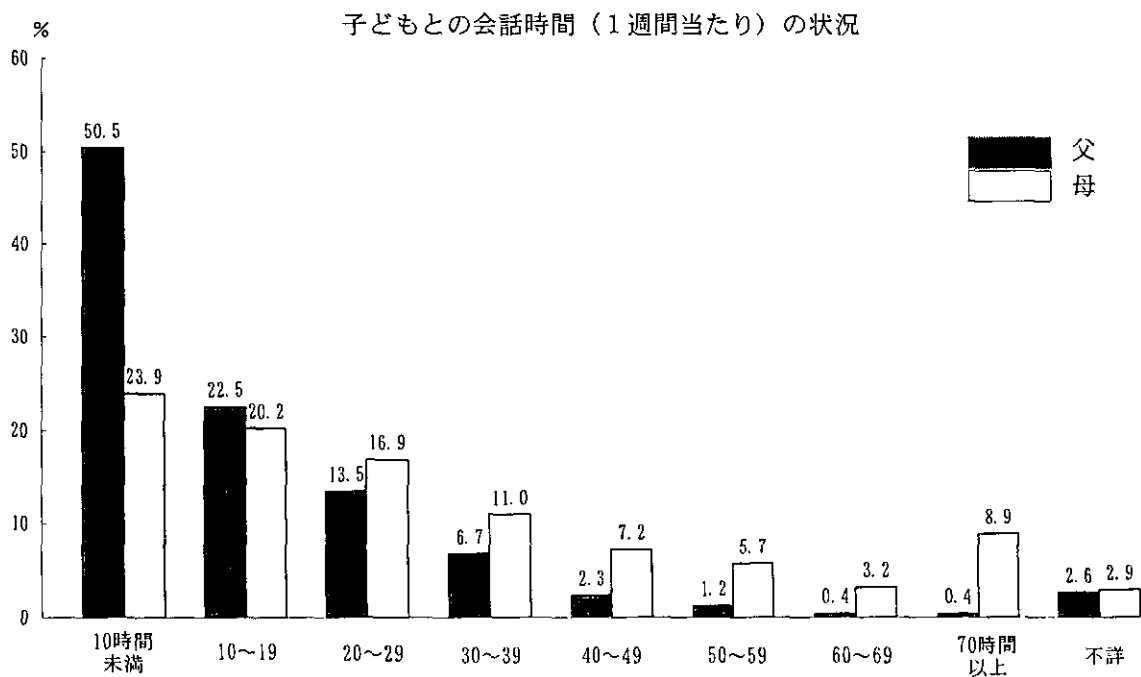
3. 子ども部屋 [概要 P. 4]

約7割の家庭で子ども部屋を有している。

	平成元年	平成6年	平成11年
子ども部屋あり	69.8	70.2	66.9

4. 子どもとの会話時間（1週間あたり） [概要 P. 4]

子どもとの会話時間をみると、父母とも「10時間未満」がもっとも多く、特に父親では50.5%と半数となっている。



※子どもが複数いる場合は、全ての子どもたちとの会話時間の合計

5. 家庭養育上の問題（悩み）（複数回答）〔概要 P. 5〕

「居住環境」などの家庭養育上の問題（悩み）をみると、「問題がある」世帯は58.5%と半数以上の家庭で問題（悩み）を抱えており、前回よりも増加している。

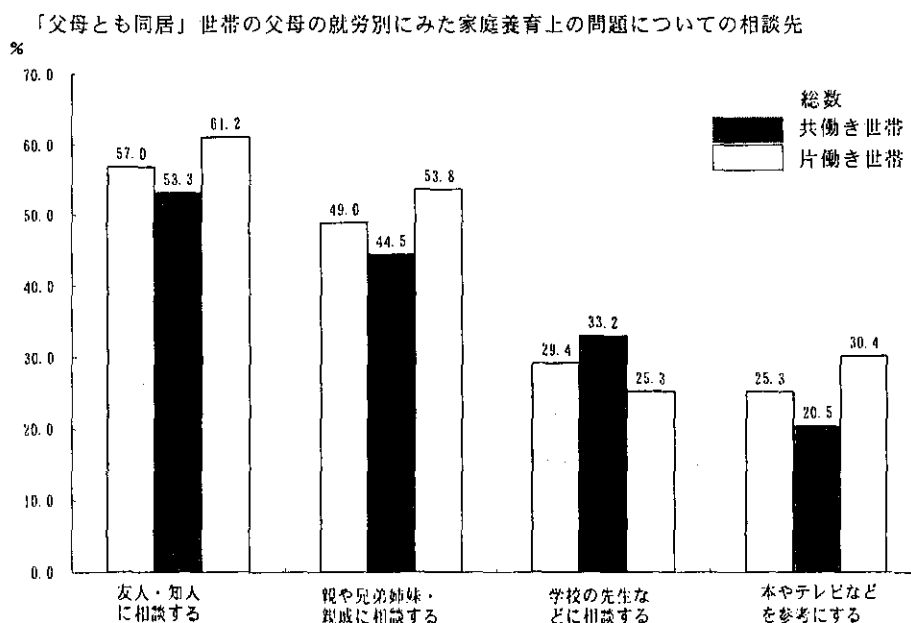
問題（悩み）の種類	平成元年	平成6年	平成11年
問題がある	46.7	55.3	58.5
親（保護者）と子の接触時間が不足している	16.9	17.5	19.9
住宅が狭い等居住環境に悩んでいる	14.2	18.8	17.8
しつけや子育てに自信がない	12.4	14.7	17.6
子育てと社会参加との両立が難しい	11.3	14.7	15.3

6. 家庭養育上の問題についての相談先（複数回答）〔概要 P. 6、7〕

(1) 家庭養育上の問題についての相談先のうち夫婦以外では、「友人・知人に相談する」が57.4%、「親や兄弟姉妹・親戚に相談する」が49.6%と多く、前回よりも増加している。

問題（悩み）の相談先	平成元年	平成6年	平成11年
親や兄弟姉妹・親戚に相談する	34.4	41.0	49.6
友人・知人に相談する	33.4	45.6	57.4
学校の先生などに相談する	30.7	25.8	29.6
本やテレビなどを参考にする	20.1	24.0	24.5
専門の相談機関を利用する	4.2	4.3	6.4
その他	1.1	1.2	1.2

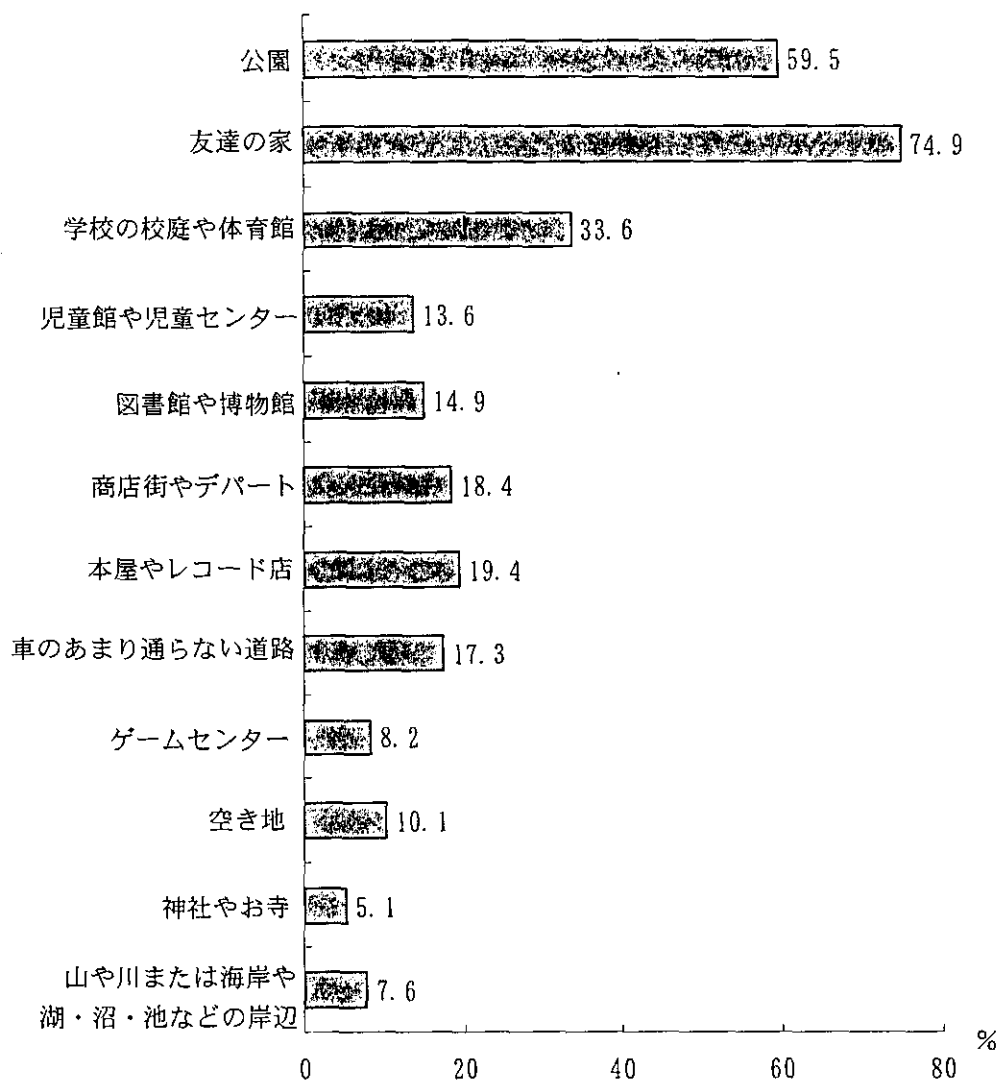
(2) 父母とも同居している夫婦の就労別にみると、「友人・知人に相談する」が高くなっており、「共働き世帯」では「学校の先生などに相談する」が、「片働き世帯」では「本やテレビなどを参考にする」の割合がそれぞれ高くなっている。



7. 普段の遊び場（複数回答）〔概要 P. 8〕

子どもたちが普段遊んでいる遊び場についての状況をみると「友達の家」が最も多くなっている。

普段の遊び場の状況



【児童の状況】

1. 終業後のクラブ活動・塾等の状況 [概要 P. 9]

(1) 地域のスポーツクラブなどを含む「クラブ活動」については、「中学校」以上で半数以上が参加している。

就学状況	平成元年	平成6年	平成11年
小学校1～3年	5.2	6.8	3.6
小学校4～6年	60.0	61.3	45.1
中学校	76.4	75.5	74.4
高校等	54.6	58.6	52.5

(2) 習いごとなどを含む「塾等」については、「小学校」、「中学校」では半数以上が通っており、「高校等」では2割弱になっているが、全体として増加傾向にある。

就学状況	平成元年	平成6年	平成11年
小学校1～3年	47.4	50.3	52.3
小学校4～6年	53.5	56.0	58.6
中学校	53.1	55.3	60.1
高校等	13.4	18.2	18.2

2. 養育上、気になっていること (複数回答) [概要 P. 10～11]

(1) 保護者から「学校の成績・進学」や「偏食」等気になっていることがあるとされる児童は36.3%となっており、就学別にみると「中学校」で57.1%ともっとも高くなっており、その内容をみると「学校の成績・進学」が大部分をしめている。

就学状況	平成元年	平成6年	平成11年
総数	28.0	25.4	36.3
未就学	21.3	19.3	22.9
小学校1～3年	31.4	27.0	34.0
小学校4～6年	30.5	25.0	38.3
中学校	33.8	33.1	57.1
高校等	27.2	26.9	44.6

内 容	上位2位
学校の成績・進学	49.4
意思が弱い	7.4

(2) 父母の就労別にみると、「該当がある」は前回よりも増加し、「共働き世帯」が38.3%、「片働き世帯」が31.8%となっており、内容別には「学校の成績・進学」で差はあるものの、その他では、あまり差はない。

問題の内容	総数		共働き世帯		片働き世帯	
	平成6年	平成11年	平成6年	平成11年	平成6年	平成11年
該当がある	25.2	35.1	28.1	38.3	22.4	31.8
学校の成績・進学	10.3	18.4	13.9	23.6	6.8	12.8
偏食	8.6	7.3	8.4	6.6	8.9	8.1
意志が弱い	4.7	5.0	5.7	5.9	3.8	4.1
孤立・内気	2.4	2.6	2.6	2.3	2.0	2.9

※「父母とも同居」の世帯のみ

